

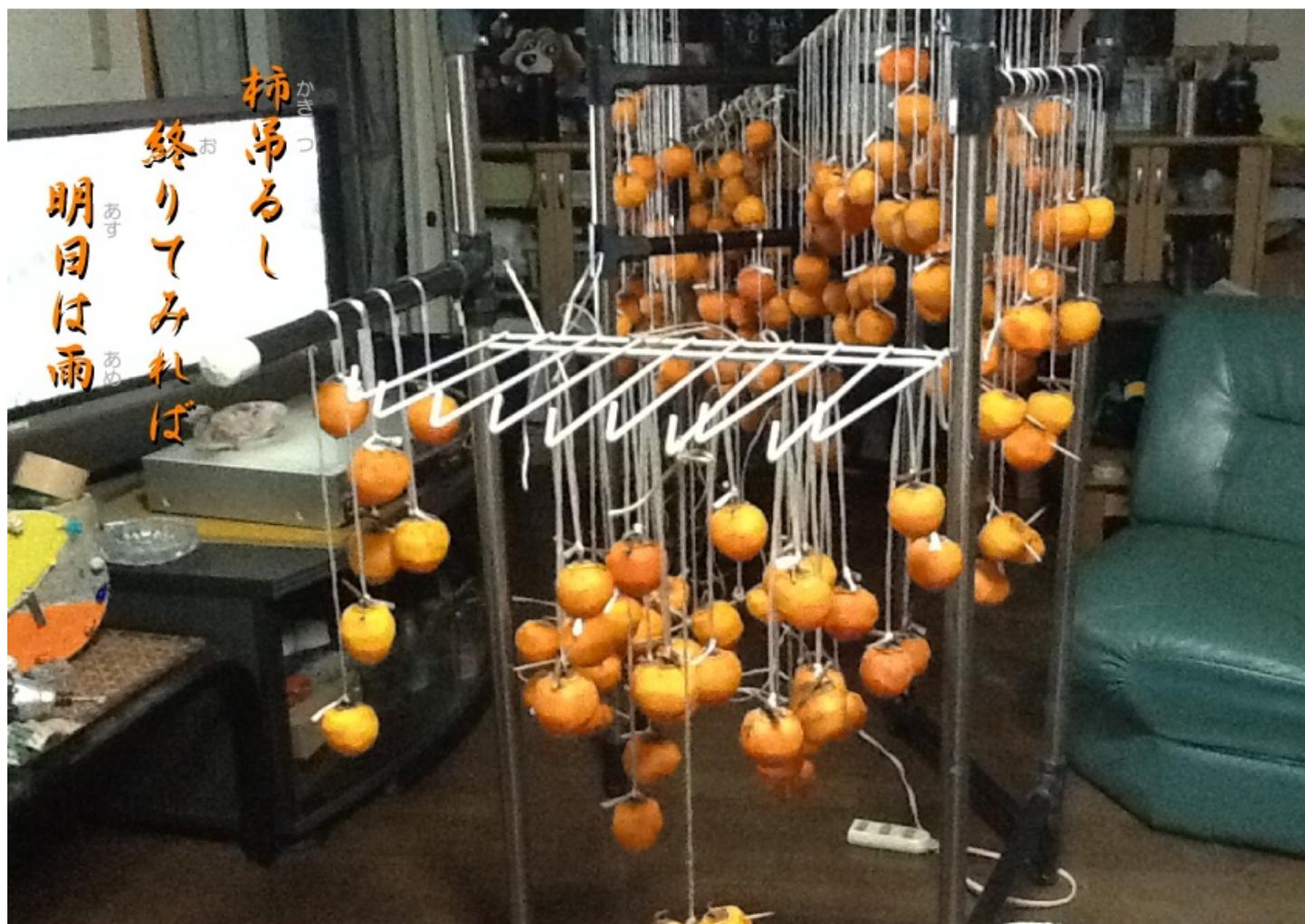
Photo俳句



(2012-12 No.04)

陽香庵 百合樹

干し柿作り



柿吊るし
終りてみれば
明日は雨

- ・今年、柿の裏年のようで、干し柿用の渋柿が産直市場にも出ていない。
- ・長者が原農園の隅に大きな柿木が1本ある。昨年見ていたら、採ることなく、終わっていたので、大家さんに、干し柿を作りたいので採っていいかと聞くと、快諾してくれた。
- ・アメリカに行く前の10月末には少し早いと思っていたが、今は、葉も落ちて、一部の柿は熟れて落ち始めている。
- ・高枝切りバサミで届く範囲は少ない。柿木は折れやすいと聞く。少年時代、よく柿木にのぼって柿泥棒に興じた思い出が蘇る。躊躇しながらも、どうにか登ることが出来たが、下を見るとやや怖い。木にしがみつながら、のこぎりで、枝ごと落とす。かくて、背負いカゴに2杯分収穫。でも、柿の総数の3分の1くらいしか、採れなかった。少し、大家さんに分けて、持ち帰る。昨年より実の付きが少ない分、粒が大きくて、手ごろな大きさだ。
- ・年老いた大家さんも、軒下に10個ほど、干している。それ以上は手が届かなかったであろう。昔は、軒下いっぱい干し柿を作ったであろうに、若い人は見向きもしないと嘆く。
- ・昨日採った柿を朝から剥き出し、家人と2人で夕方までかかって、吊り終えた。木の上から落とした柿の一部は、キズ口から膿みだして、干し柿に出来ない。これは、柿酒にすることにした。昨年つくった柿酒を今飲んでいるが、果実酒の中では、梅酒に次いで美味しい酒だ。
- ・テレビで、明日の天気予報を知らせている。朝方、雨が降るらしい。かくて、家の中に取り込んむことにした。今日は、干し柿作りで1日を過ごした。
- ・昨年は、干し過ぎて、硬くなって失敗したものが多かったので、今年は、干し加減に留意しよう。



<雨が降らなかったのでベランダに出した>

柿採りて
木の上で想う
少年期



<まだ、たくさん残ってはいるが・・・>

大根干す



不揃いの
足を想いて
大根干す

- ・毎年、中伊豆体験農園管理組合が作った大根で、タクアンを作っているが、今年は、大根作りから始めるべく、長者が原農園に「阿波晩生たくあん大根」を一袋蒔いた。すくすくと育ち、本日、抜いて、洗い、大仁ふるさと農園に干した。
- ・大小合わせて、63本の収穫となった。一部、二股に分かれてしまったものもあったが、大部分は、白くて長い、立派な大根であった。

大根等
竿に吊るされ
踊りだす

大根干す
真白き足が
艶めかし

大根干す
早くも陽が
傾きぬ

大根干し
仲間が褒める
声嬉し

大根干し

竹竿しなり
補強する

残支柱

大根干しに
役立ちぬ

・ トマト覆いのフレームに大根を干す。

大根抜き

寝転び太さ
競い合い



大根抜き

不揃いなれど
個性あり

大根抜き

葉がポキポキと
折れる音

大根抜き

葉も主役だと
主張せり

大根抜き

曲がりながらの
穴残し





収穫祭

吾焚き火にて

焼き芋屋

- ・恒例の「中伊豆体験農園収穫祭」は23日が雨のため、翌24日に開催された。
- ・小生は、焼き芋係りを仰せつかり、終日、焚き火にて、焼き芋を焼いた。
- ・24日も、朝方は雨模様、開会の10時ごろには、雨はあがったものの、遠くから来る予定の人の欠席があり、例年より、参加者は少なかった。
- ・このごろは焚き火ができる環境にないので、久しぶりの、焚き火だ。勢い良く燃え盛る炎を見るのはいいものだ。雑木を燃やし、籾殻を入れて、灰を増やし、アルミホイールで巻いたサツマイモをくべる。
- ・農園では、ドラム缶で作った焼き芋器もあり、両方で、焼き芋を作った。
- ・去年は、ドラム缶の焼き芋器だけだったが、なかなか焼きあがらず、需要に間に合わなかったので、今年は、焚き火での焼き芋作りも加えたもの。
- ・焚き火での焼き芋作りは、焼けたかどうかの判断が難しいが、こちらの方が一味上だと思う。
- ・収穫祭では、このほかに、イノシイ鍋、焼肉（イノシイ肉、鹿肉、豚肉）バーベキューが振舞われたほか、品評会・即売会なども行われた。



秋色に

染まれし里に

人は無し

- ・今年の伊豆は、例年になく、紅葉が鮮やかだ。
- ・長者が原地区は、周りを山に囲まれた盆地で、寒さも厳しく、先ごろは、高い霜柱が畑に立った。そのためか、紅葉が見事だ。
- ・でも、紅葉の名所というわけではなく、わざわざ見に来る人はまれである。
- ・畑での仕事も忙しくはない季節を迎え、田畑にも人の出がほとんどない。
- ・車の中で、熱い缶コーヒーを飲みながら、しばし、絵画のような紅葉の景色を眺めるのも一興である。
- ・桜は人出が少ないと興ざめるが、紅葉は、人出が少なくても、それなりに楽しめる。



霊園を

墓誌読み読み

駅に行く

- ・自宅から、西武新宿線玉川上水駅へは、駅前に広がる立正佼成会霊園の中を横切るのが最短のルートだ。
- ・ここを通る時、つい、墓誌を読んでしまう。最近刻まれた墓誌には高齢者が多いが、昭和の時代のもは50歳台が一番多い。人生50年と言われていた時代だ。そうしてみると、妻が55歳で亡くなったのは、けして早すぎたわけではなかったのだと、一人合点する。
- ・小雨が降る中、午前中、妻の墓参りに行った。誰が参ったのか、手向けたばかりの花とおいお茶の缶が供えてあった。なくなって9年目を迎え、吾より訪れる人がほとんどなかった今日この頃であったが、1人でも忘れずにいた友が残っていたことに感謝。その花に加えていつものバラの花を添えた。線香に火が着かない。持ってきたライターのガスが切れていたのだ。焼香を省いて、4人目の孫が無事産まれたことを報告する。

妻の墓

誰来たるか

花とお茶



20周年
ふりかえ見れば
昨日かな

・12月3日、銀座ラフィナートで行われた自研会20周年記念パーティに出席。年4回行われてきた自研会（自動車補修部品研究会）が今回で80回、20年を迎えた。小生はセミリタイヤを機に一昨年退会したが、同研究会は自動車リサイクル法の成立に関して縁の下力となった。そのメンバーも、自動車解体業者、自動車中古部品業者、自動車再生部品製造業者、シュレツダ一会社、カーメーカー、損保関係者、大学教授等々多彩なメンバーである。今後、30周年、40周年に向けて持続されることを期待する。

・この間、4名のメンバーが亡くなったが、最近、メンバー会社の多くが代替わりし、若返っているのが頼もしい。事業継続がスムーズに行っているということは、その事業が後継者にとって魅力が増している証でもあるからだ。

自研会
ふりかえ見れば
昨日のごと

自研会

早くも20周年

迎えけり

自研会

よくも続けり

20年

- ・パーティ散会后、旧友と忘年会とあいなった。
- ・友と別れ、午後9時過ぎ、東京駅から立川行き電車に乗る。家人からの電話に起こされる。なんと、電車は東京に向かっているではないか。急いで新宿で降り、下り電車に飛び乗る、小金井行きだ。0時を回っている、立川まで帰れないかと不安に思っていたら、後続の最終電車がやって来た。どうにか立川まで帰ることが出来た。駅を降りると、どうも駅前の雰囲気が違う。小さな古いラーメン屋がある。ラーメンを食べてからタクシーに乗る。タクシーに乗って気がついた。駅の反対側に降りていたのだ。
- ・時間から推測すると、中央線を2往復してしまったらしい。どうも、最近、酒を飲んで、乗り物に乗ると、寝てしまう癖ができたようだ。昨日は、ひばりが丘で友達と飲んで三鷹行きのバスに乗ったら、終点でバスの運転手に起こされた。
- ・というわけで、最近は、飲み会がある時には、手に何も持たないことにしている。そのため、今回の写真は携帯電話で撮影したものだ。

旧友と

酒飲み交わす

忘年会

忘年会

髪の薄さを

競い合い



落ち葉舞う

公園内を

歩く朝

・早朝、薄暗い内から、大南公園には、ウォーキングする人が大勢いる。この時期、色とりどりの落ち葉で園内が敷き詰められる。特に、イチョウ林の黄色が好きだ。隣接する我が家の小さな庭やベランダも落ち葉で埋まる。

・早起きして、落ち葉を踏みしめながら散策する。落ち葉を楽しむために、園内の掃除を止めているが、12月に入ると、その葉も掃き清められ、公園は本格的な冬を迎える。

カサカサと

音たてながら

歩く朝

公園の

落ち葉なくなり

冬来たり

落ち葉掃き

黄色が茶色に

変わりけり

干し柿



干し柿で
冷蔵庫が
溢れたり

- ・ 昨年は、干し過ぎて、半分近くが、硬くなって食べることが出来なかった干し柿。今年は少し早めに取り込んで、タッパに入れ、新聞紙で包んで、冷蔵庫に入れた。こうしておくと、暖かい伊豆地区でも干し柿に粉がふくという。
- ・ 小さい方の冷蔵庫が、干し柿でほぼ満杯になった。
- ・ 干し柿作りは手間隙がかかるが、凝縮した自然の甘さがたまらなく美味しい。

散り紅葉



千代紙を

敷き詰めたるか

散り紅葉

- ・ 修善寺自然公園には旧修善寺町制施行記念として大正13年植栽された約1000本のもみじが群生している。
- ・ 隣接する「虹の郷」のもみじも有名だが、修善寺自然公園の方は入園無料だ。
- ・ 最盛の時期が過ぎて、多くの葉が落ちているが、風が吹くたびに、舞い落ちるもみじを肩に受けながらの散策もいい。
- ・ 敷きつめられた落ち葉をカメラでのぞくと色とりどりの葉の重なりが千代紙のようで美しい。

こぼれ種



こぼれ種

出てきた苗を
植え替えり

(長者が原農園日誌)

- ・夏、チマサンチュウに董（とう）が立ってきたので、引き抜いて、畑にそのまま積んでいたところから、冬の寒さにもめげずに、芽が出て、苗にまで成長してきた。
- ・そこで、畑に畝をたて、植え替えた。連日、霜柱が高く盛り上がる畑の中で、枯れずにいる。成長は遅いものの、年明けには、もう少し、成長するであろう。
- ・焼肉には、やはりチマサンチュウである。
- ・種代、苗代もバカにならないので、畑の中で、健気に芽を出している野菜を見つけては植え替えることにしている。

干し大根



干し大根
風に吹かれて
細りけり

干し大根

風に吹かれて

細りけり

(大仁ふるさと農園日誌)

- ・ 11月25日に干した大根が、ほどよくしぼんで細くなった。
- ・ 干してから10日ほどで、OKとのことだったが、途中、雨の日もあったし、太いものにやや硬さが残っていたので、今日までおいといた。
- ・ 取り込んで、車に入れると、干し大根の匂いが、車内に充満する。
- ・ 明日、タクアンの仕込みを行うべく、農協で「たくあん漬けの素」を買い、体験農園で米ぬかを分けていただいた。



タクアンを
漬^つけて重石^{おもし}を
積^つみ重ね^{かさ}

タクアンを
漬けて重石を
積み重ね

- ・毎年、中伊豆体験農園で、行ってきたタクアン漬けを今年は、大根の種まき～収穫～大根干しと、全部自家製で行うことにした。
- ・63本の大根を取り込んだが、いざ漬けはじめたら、約半数が少し硬い部分が残りに、干し足りていなかった。今日は半分だけ漬けて、残りは、再度、ベランダで干しなおすことにした。

タクアンを
漬けてベランダ
風強し

- ・以前、桶を地下に置いたら、取りに行くのが面倒で、漬かり過ぎてしまり、失敗したので、今回はベランダに置くことにした。強い風が吹きつけるベランダでのタクアン漬けがうまくいくか？



ポインセチア
届とどきて部屋へやが
華はなやけり

ポインセチア

届きて部屋が
華やけり

・ ネットで注文していたポインセチアが届いた。高さ 1 m を超える立派なもので、クリスマスツリー代わりにピッタリ。ここまで育てる手間はたいへんだったろうと推測される。

・ 製造販売元=オーク・リーフ URL:<http://oak-leaf.jp>



ウメモドキ
夜中に弾け
氷ゴクリ

- ・木の葉が落ち、ウメモドキの実が姿を現す時期だ。
- ・昨年、目星をつけていた場所は、木が切られていたり、実つきが悪かったりで、あまり採れない。
- ・新に見つけた場所は、高い木のでっぺんに覆いかぶさっていて、採りにいけない。
- ・小さな枝を、花瓶にさした。夜中にのどが渴いたので、水を飲みに階下に下りると、ウメモドキの実が小さな音を発しながら、弾け、赤い実が姿を現していた。ウメモドキは、この弾けたばかりの赤い実と残った皮の色合いがいい。



芋を干す
乾くそばから
試食せり

- ・今年のサツマイモの出来は、まあまあだった。
- ・野菜は、干すと甘さを増す。乾燥芋はその代表のようなものだ。買うと高かったり、安いのは中国産だったりする。自家製が一番無難だ。作るのも簡単だし。
- ・昨日今日と好天が続き、芋の乾きがいい。乾き具合を見るために、時々、試食する。お茶をいれたから、コーヒーを飲むからと、試食の回数が増える。干し柿と同じで、ころあいが難しい。残り歯の数も少なくなったので、あまり乾燥し過ぎず、柔らかさが残っている程度がいい。
- ・干し柿にしる、乾燥芋にしる、自然の甘さのおやつに、最近の子供たちは見向きもしないようだ。化学調味料で舌がバカになっているのか、ほんとうにおいしい味覚を味わう舌感覚が失われるのはもったいないし、損だ。



夜盗蛾の

卵産みたる

ケール抜く

- ・毎朝の生ジュース作りにかかせないケールが今年は、元気にたくさん育っている。
- ・その中で、葉裏に卵をビッシリと産み付けられているものが何本かある。夜盗蛾の卵である。霜柱の立つ寒い畑の中で健気に産み付けられた卵であるが、一夜にして葉野菜をスダレ状に食い荒らしてしまう夜盗虫はなんとしても、早期に阻止したい。
- ・卵を産み付けられた株は、多くの葉に卵が確認できる。ケールの本数に余裕があるので、思い切って抜き取り、畑の外に放り投げる。
- ・それにしても、夜盗蛾（虫）の生命力はすごいものがある。青虫はいくらか清潔感があるが、夜盗虫の色形がいけない、嫌悪感を覚える。もっと可愛げのある色形をしていれば許せるのだが……。これって、虫種差別かしら……………



温泉が 出なくてラッキー 健の水

・西伊豆大沢里（おおそうり）にある「健の水」。2～3ヶ月に1回、汲みに行く。我が家の水は向かいのマンション管理組合から供給される水（井戸水）であるが、カルキの匂いが気になるので、料理や飲用にはもっぱら、「健の水」を使っている。家人が、水がなくなったり、横着して、水道水でお茶を入れると、すぐに違うと、分る。

・温泉を掘っていたら、温泉でなくおいしい水が出たとの日くつきの水で、伊豆地区はもとより、関東・東海など遠方からの車ナンバーも珍しくない。祝祭日・土日は込み合い、空き待ちになるが、今日は珍しく、空いていた。

・地下1キロメートルから吹き出る深層水を、10数箇所ある蛇口から受水する。100円コインを投入すると出る無人給水装置だ。

・「健の水」の特徴

硝酸性（態）窒素が極めて少ない（0.02mg/L未満）

還元水である（酸化還元電位156ミリボルト）

放射性物質「不検出」（財九州環境管理協会調べ）

血液と同じ弱アルカリ性（Ph値7.6）

・水を自販機で売の方が温泉より儲かるに違いない。温泉が出ていたら、建設費・設備費やら人件費がかかるわりにはそんなに儲からない。

・水といえば、群馬・みなかみの「釈迦の霊泉」も取り寄せているが、こちらはやや高い。万病に効くという触れ込みだが、とにかく美味しいので、少しずつ、飲んでいる。果実酢を薄めるのと、夜、寝床に置き飲み水限定だ。効かない薬を飲むよりましだと思っている。こちらはもっと儲かっているようだ。

・自然の恵みは万人にできるだけ安く提供してもらいたいものである。



吹き上がり
深く流るる
湯に沈む

・西伊豆大沢里での水汲みの帰りに寄るのは「やまびこ荘」が大沢温泉「山の家露天風呂」に決めている。

前者はぬるめの湯なので、この時期はもっぱら後者になる。

・女湯との間仕切りから、ポコポコと音を立てながら、湯が噴出している。湯船は深いところではへそくらいまでである。溪流のようかけ流れて、前の川に注ぐ。直接川に流れ落ちているので、ここでは、なるべく石鹸の使用は控えた方がいい。

・休憩場の入り口の掲示板に、四万温泉、道後温泉と同様の炭酸泉で肌を美しくし美人になる化粧の湯ともいわれていると書いてあるが、ここで、びっくりするような美人に出合ったことは一度もない！



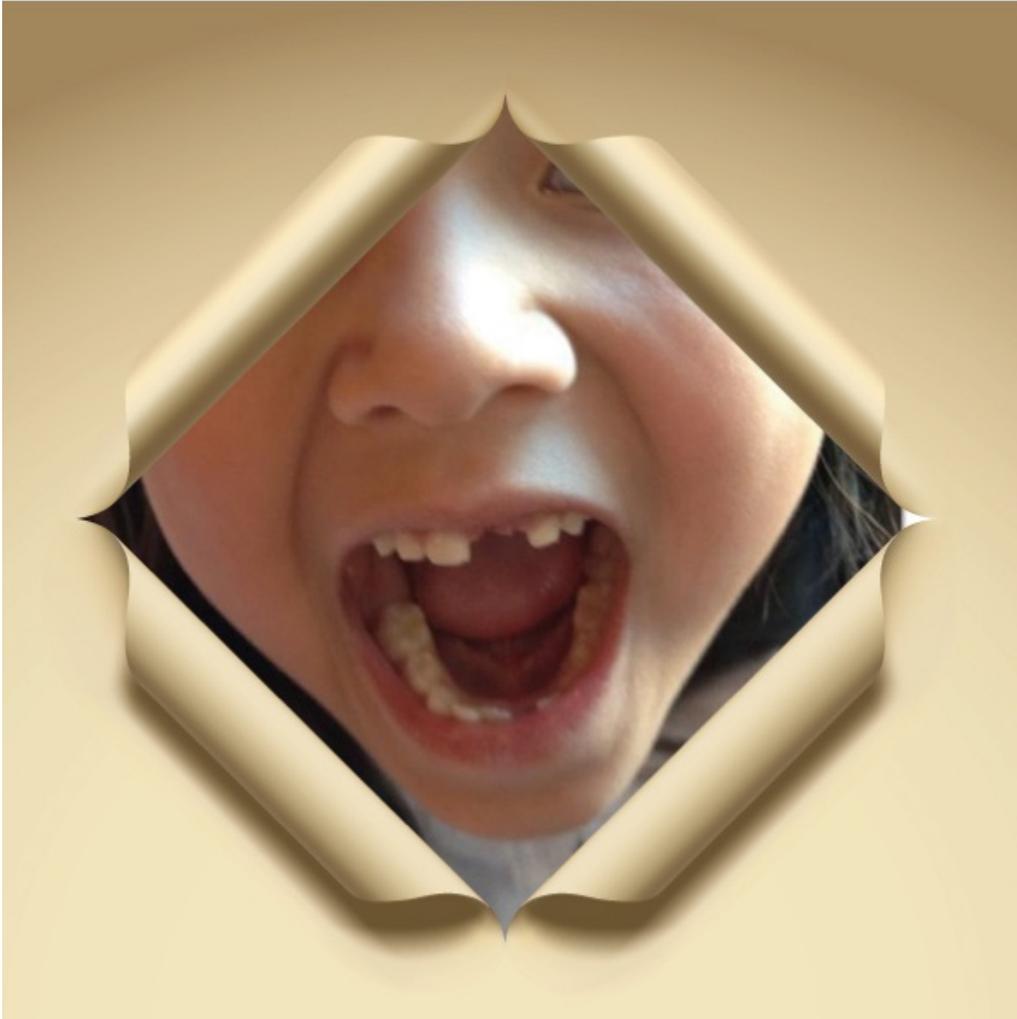
ユニクロで

買うはフリーの
サイズのみ

ユニクロや

ももしき離せぬ
齢になり

- ・知人と会食の約束をしたので、ひさしぶりにユニクロに行き、ズボンを買いに行く。
- ・背広はもう着る機会がなかろうと、ウエストが入るものは、野良着にしているから、いざと言うときに着ていくものがない。
- ・少しやせたとは言え、ウエストのサイズと股下の長さがマッチしない。やむなく、ウエストがフリーのゴム式のズボンを買求める。
- ・ついでに、薄手のももしきを買う。最近はやりの薄くても暖かいやつだ。こちらも、いまあるやつは少しウエストがきつい。昔ながらのラクダのももしきは、薄手タイプを一度はくと、敬遠してしまう。



歯^はが抜^ぬけて
ジージ^{おな}と同じと
いう孫娘^{むすめ}

歯が抜けて

ジージと同じと

いう孫娘

- ・アメリカにいる5歳になる孫娘の乳歯（上下各1本）が抜けた写真が届く。
- ・日本では、乳歯が抜けると、下の歯の時は「鬼の歯と代われ」、上の歯の時は「ねずみの歯と代われ」などとおまじないを言いながら投げる。下の歯の場合、屋根の上に、上の歯の場合、縁の下に放り投げるのが一般的だ。上の歯は下に、下の歯は上にすくすくと伸びていくようにとの願いをこめて。
- ・このような風習は、日本や中国など東南アジア諸国で多く見られる。
- ・これに対して欧米諸国では、歯を枕の下に置くと、夜中に歯の妖精が歯とプレゼント（コイン）を交換してくれるという風習が一般的だ。そのため、妖精あてに、手紙も書く。孫娘の写真にはその手紙も写っていた。
- ・国によって、この妖精がネズミやウサギに代わるところもある。
- ・最近、へその緒のように、記念にとっておく事例も増えているようで、ネットではいろいろかわいらしい乳歯ケースが売られている。
- ・ノーベル賞を取った山中教授のおかげで、再生細胞、再生医療について注目があつまっているが、歯科学会では乳歯の利用方法について次のような研究がおこなわれている。歯の中には「歯髄幹細胞」と呼ばれる細胞の元になる細胞が含まれていて、それは歯だけにとどまらず、神経など体中の様々な細胞に変化する性質を持っている。この細胞は、永久歯にも含ま

れているが、同じ歯でも乳歯の場合には、この「歯髄幹細胞」が若いため、遺伝子の損傷が少ない。乳歯が抜けた直後に「歯髄幹細胞」を採取するのがベターだという。

・そこで、日本小児歯科学会は、全国の歯科医院と大学病院が連携して、抜けた直後の乳歯から「歯髄幹細胞」を取り出して培養し、冷凍保存しておくことにより、将来病気になった際に、神経などを再生させるための治療に利用する仕組みを整えていくことになったそうだ。

・盲腸なども、一定の役割があるそうだが、人間のパーツに無駄なものはないのだ。



吉野家が
蕎麦も売るなり
新東名

- ・第二東名、NEOPASA駿河湾沼津にて。
- ・ここの吉野家は蕎麦もうな丼もメニューにある。
- ・カレー、ラーメン、吉野家の牛丼が、時々食べたくなるものの御三家であった。
- ・でも、最近、吉野家に行く足が遠のいている。
- ・同業他社に追いつかれ、追い越されている感が否めない。
- ・かくて、うな丼を出したり、カレーに手を染めたり、試行錯誤しているようだが、いまいちいけない。カレーにいたっては、一度食べたなら二度と注文しない出来栄えだ。カレー専門店のCoCo壱番屋に、吉野家がカレーをメニューに加えても少しも脅威でないとコメントされるしまつだ。
- ・同業他社より少しばかり高くてもいい、アメリカ産の牛肉に拘った吉野家らしい、本業に回帰した、ハイレベルの牛丼を提供してもらいたい。小生は、生卵をトッピングするのが常だが、少し高くてもいいから、放し飼いの有精卵などの提供があってもいい。
- ・アメリカ、サンティエゴで、吉野家を見た。入りはしなかったが、車内から写真を撮った。雰囲気は日本の吉野家と少し違うようだ。





新東名

風と陽により

火を灯す

- ・新東名のパーキングエリアの一部の電力は風力発電や太陽光発電でまかなっているようだ。
- ・東名道路の路肩には、太陽光発電のパネルを設置する場所はいくらでもある。高速道路と自然エネルギー発電のコラボはもっと、積極的に行われてもいい。
- ・光回線網、自然エネルギー発電等々、日本の高速道路は貴重な財産であり、さらなる有効活用が期待できる。さすれば、今後必要とされる、道路の補修費用もこれらから捻出できるのではなかろうか？
- ・規制緩和によって、大都市部の駅中は、商業拠点として有効活用されたし、高速道路のパーキングエリアも鉄道駅に倣って重要な場所になれそうな予感はある。ただし、小生が訪れた時は、各パーキングエリアとも、閑散としていた。

ipadmini

1件目 伝票番号 3006-6658-744

配達完了
このお品物はお届けが済んでおります。
お問い合わせはサービスセンターまでお願いいたします。

| 商品名 | お届け予定日時 |
|-----|---------|
| 宅急便 | |

| 荷物状況 | 日付 | 時刻 | 担当店名 | 担当店コード |
|--------|-------|-------|-----------|--------|
| 海外荷物受付 | 12/22 | 15:05 | 深セン支店(中国) | 640009 |
| 海外発送 | 12/23 | 09:10 | 深セン支店(中国) | 640009 |
| 国内到着 | 12/23 | 16:29 | ADSC支店 | 047750 |
| 荷物受付 | 12/24 | 13:04 | ADSC支店 | 047750 |
| 発送 | 12/24 | 13:04 | ADSC支店 | 047750 |
| 作業店通過 | 12/24 | 15:58 | 東京ベース店 | 081990 |
| 作業店通過 | 12/25 | 04:29 | 静岡ベース店 | 051990 |
| 配達店到着 | 12/25 | 07:53 | 伊東宇佐美センター | 051030 |
| 配達完了 | 12/25 | 10:59 | 伊東宇佐美センター | 051030 |

ご利用いただきありがとうございました。

クロネコメンバーなら、宅急便を送っても、受け取っても、ポイントがたまる！ **クロネコポイント**

アイパッド
ipadmini
中国から
と
飛んでくる

ipadmini

中国から
飛んでくる

- ・ 12月31日に納品の予定だったipadminiが25日に届いた。
- ・ 荷物追跡サイトで見ると、22日に中国深センを出た小生のipadminiは翌23日に深センを飛行機で発ち、同日日本に到着、翌日通関後東京ベース店を通過、25日に静岡ベース店、宇佐美センターに到着・即日配達されている。
- ・ 名前を漢字で刻印サービスをされているので、中国深センで個別パッケージされているはずである。
- ・ apple恐るべし。商品を直売するだけでなく、倉庫経費も在庫経費も、売り上げ処理経費もかけないで、商品を世界中に販売しているのだ。
- ・ 商品が小さく・軽いとはいえ、利益幅は相当なものであろう。
- ・ だいぶ前のことだが、東京八王子のヤマトロジステックで、お歳暮時期に、大型トラックで産地から到着した大量の市田柿を仕分けしていた光景を目撃したことがある。
- ・ 現地からネット経由で届いた配送先別にソートされた宛名情報ラベルをプリントアウトし、アルバイトの人達が荷物に貼って、仕分けしていた。荷物を仕分けするのではなく、すでに仕分けされている宛名ラベルをはって、配送地区別のカートに荷物を入れるだけ。以前なら大掛かりな仕分けマシンが高速で自動仕分けして、全国に配送していたのが、ごく少ない投資（安いパソコンとプリンター）と、狭い場所で、効率的かつ安価で確実な仕分けが出来てしまうのであった。現在でも、この仕組みは、雑誌やカタログなどの仕分け配送システムとして採用されている。
- ・ 商品を運ぶことはSFのように、電送でおこなうことは無理で、リアルで行わなければならないが、配送情報はネットで送り、末端で商品と合体することが可能な時代になった。appleはさらにこれを進めて、製造からユーザーへのお届けまで、最小経費で処理しているのである。大型量販店に価格主導権を奪われ四苦八苦している日本の電機メーカーをしりぬにアップルは大もうけしており、ユーザーの満足度も高い。
- ・ 最近、物忘れがはげしい。かくて、身の回りの物はなるべくポケットに入れたまま電車に乗りたい。これが、ipadminiを購入した小生の動機だ。



白菜が

鉢巻まいて

やせ我慢

- ・冬の厳しい寒さから身を守るため、ワラ縄などで白菜の葉をしぼる。
- ・外側の葉は、霜や寒さにやられて、しおれたり、枯れたりするものの、中の葉を外葉に守られて、寒さを防ぐことができる。そして、自分自身も糖分を増して、甘くなる。
- ・形が悪く、小さくなるのであまり市場には出ないが、甘くて美味しい白菜となる。
- ・人間も同じで、厳しい試練に耐えた者こそが、強靱な精神力と温かみのある人間性を会得できる。



短日や

明日に延ばせり

墓参り

- ・墓参りに帰京する。
- ・ホームセンターに花を買いに入る。年末で人とくるまでごった返している。特に灯油売り場とガソリン売り場に長い列が続いている。雨も降り出していて、4時前だというのに夜の帳（とばり）が降りてくる。そのまま墓参りする予定を明日に変更した。
- ・昨夜の雨がうそのように、朝から快晴だ。
- ・墓前には、既に花が挿してあり、墓石にかけた水も新しい。誰が来てくれたのだろうか？妻亡き後、9年経ても訪れる人あるに感謝。



師走なり

車も速く

走りゆき

- ・ひさしぶりに、田舎から都会に出てくるとなんとなくせわしない。師走のせいか、くるまもせかせかと余裕のない走り方をしているように見える。
- ・ホームセンターから左折して出る時、入って来る車に気を取られていて、右側確認をすっかり忘れた、ものすごい警笛音がしたが、手で謝ってそのまま出る。追いかけてきた車から若者が出てきて「なんて運転してるんだ！」と怒鳴る。車中から平謝りして、事なきを得たが、都会での運転はそろそろ危うくなってきた歳かもしれない。

Photo俳句(2012-12 No.04)

<http://p.booklog.jp/book/63375>

著者 : atec (陽香庵 百合樹)

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/atec/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/63375>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/63375>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ